

伊東

傳七市藤原具八

台徳院殿ははらへありまゝ

接するは家
傳七市

其は伊東右馬先祐衛二男ありと記す此祐衛は右馬先祐尚よりその名
としてその家傳より祐尚の男は祐三市祐次といふそのはらり天正五年
より 東照より成ふとあるは寛永藩より同一と見ゆ其子孫
所見か今此家傳は祐衛二男といふは同一と見ゆ其子孫
とのくえり今より
く家傳よりいふ 大番を初り原米三百俵と

たまは後大坂の材木をとりし時

寛永十六年六月死に其子傳七市祐房

傳七市

送之函

家齊（今の印書院番）
伊東結存（祐隆の祖なり）

伊東

右三市藤原長重（ちか）丹後と長次（ちか）三男
ありて若狭と長昌（ちか）弟あり父長次と
ありり豊后太閤（ちか）仕へ大坂落城は
後

右徳院殿（ちか）仕うまのま薦願一万
三百石餘と錫り寛永二年二月七十
年（ちか）して卒（ちか）長重